「神は真実な方です」　　2015 年 02 月 01 日

コリントの信徒への手紙 一 10 章 10 節～13 節。 彼らの中には不平を言う者がいたが、あなたがたはそのように不平を言ってはいけない。不平を言った者は、滅ぼす者に滅ぼされました。これらのことは前例として彼らに起こったのです。それが書き伝えられているのは、時の終わりに直面しているわたしたちに警告するためなのです。だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい。あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。

パウロは出エジプトにおいて不平を言い、悪をむさぼる偶像礼拝を行った者たちは「滅ぼす者に滅ぼされました」と書いている。神がご自身の手で背信の者たちを殺すことはあり得ない。人を殺すのは人間の仕業である。「滅ぼされました」が歴史的事実であるなら「粛清」があったということである。著者たちは神を畏れ、信仰を貫くように諭すために書いたのではないか。パウロは前例として起こった悲劇を書き伝えたのは、終末に直面している私たちへの警告、主イエスの再臨を待つ者は目覚めて、今を生きよと諭している。

パウロの真意は下記のことを指している。コリント教会では、教会の主導権を取ろうとする派閥争いがあった。コリントの町の退廃が教会に持ち込まれ、性的な乱れ、裁判沙汰が起こった。また、パウロに対して批判悪口を言い、福音の真理から離れる事態があった。彼らは神を信じていると言いながら、実は神はいないという深いニヒリズムに侵されていた。そこでは、生きることはどうでもいいとする虚無が生み出す不平が渦巻いていた。神を不在とする「不平」こそが、コリント教会の病巣だった。「だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい」と言う。この言葉は力と知恵を誇り、自分は立っていると豪語する人々への戒めであろう。あなたが本当に立っているなら、倒れないように気をつけなさい。パウロは、勇ましく振る舞う人々の中に虚偽を見て、そこに巣食う投げやりな、愛を喪失した姿を指摘している。

そこで、言葉を変え「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます」と神の恵みのリアリティを語る。パウロは「神は真実な方です」と生ける神へと心を向けさせる。この世で生きている限り、人は皆、思いがけない試練に遭う。しかし、耐えられないようなものはなかったはずだ。真実な神は試練と共に、逃れる道をも備えてくださる。「逃れる道」は試練の真只中を突き破っていく「出口」の意味である。

この言葉はパウロの実体験である。コリント（二）1 章 8 節 b、9 節で「わたしたちは耐えられないほどひどく圧迫されて、生きる望みさえ失ってしまいました。わたしたちとしては死の宣告を受けた思いでした。それで、自分を頼りにすることなく、死者を復活させてくださる神を頼りにするようになりました」と書いている。神は試練の中から突き出ていく出口を備えてくださる真実な方であるという御言葉に、幾度救われてきただろうか。苦難にある人々を見舞った時、この御言葉を読んで祈った。私と同じように、この御言葉によって、神に望みを置き、試練を乗り越えた方々は数知れない。